

極東開発工業

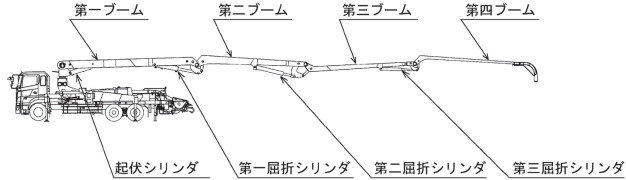
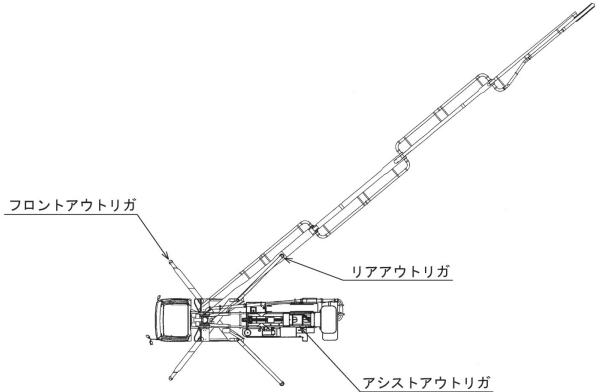
適 用 範 囲		モ デ ル 名		PH50C-15
		主仕様	吸吐弁形式	－
			最大吐出量	m ³ / h
			最大吐出圧力	Mpa
			ア-ム最大地上高	m
		適 用 号 機		21P08-0020～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検 査 基 準 値
作業装置	圧送装置	ポンプ本体	ピストンストローク回数	回/min
			ローター回転数	回/min
			(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)
			(エンジン回転数)	(min ⁻¹)
			(作動油温度)	(°C)
	カクハンツチ 攪拌装置	回 転 速 度 チェーンのたわみ	min ⁻¹	30±3
			m m	20・チェーン中央
			(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)
			(min ⁻¹)	(シャシで異なる)
			(°C)	(50±10)
	真空ポンプ	圧力設定値 (設定値到達時間)	Pa	0.083
			(min)	(10分以内)
		圧力降下許容量 (保持時間)	Pa	0.007
			(min)	(60)
		Vベルトのたわみ	m m	<電動モ-タ駆動>
	ブーム装置	シリンダー 自然降下量	ブーム(1)シリンダー	m m
			ブーム(2)シリンダー	m m
			ブーム(3)シリンダー	m m
			ブーム(4)シリンダー	m m
			ブーム(5)シリンダー	m m
		(測定時間)	(min)	(10)
			(作動計測条件)	(-)
			(作業装置姿勢)	[図 No.1]
		☆ ブームシリンダー 作動時間	ブーム(1) 伸 び	sec
			縮 み	sec
			ブーム(2) 伸 び	sec
			縮 み	sec
			ブーム(3) 伸 び	sec
			縮 み	sec
		ブーム(4) 伸 び	sec	20±10
			縮 み	30±10
			ブーム(5) 伸 び	sec
			縮 み	sec
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)
		(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図面No.3]
洗浄装置	水 ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	油 圧	Mpa
			水 圧	Mpa
			飛距離	m
	空 圧 機	吐出圧力	MPa	－
			(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	－
			(作動油温度)	(°C)

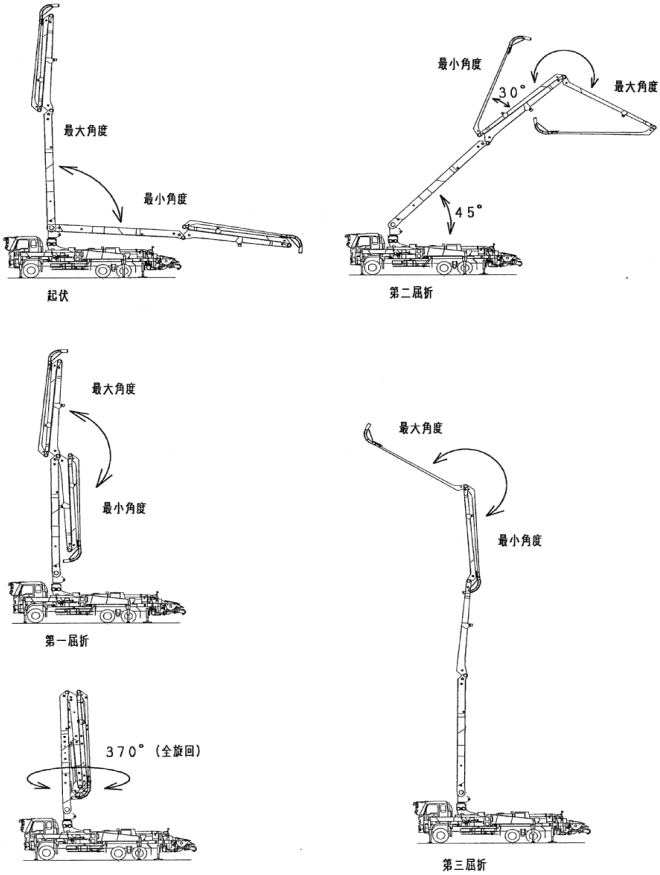
☆印：新車基準値を表す(参考値)

コンクリートポンプ車

適 用 範 囲		モ デ ル 名		PH50C-15	
		主仕様	吸吐弁形式	－	スクィーズ
			最大吐出量	m ³ /h	50(36)
			最大吐出圧力	Mpa	1.8(2.5)
			ア-ム最大地上高	m	15
		適 用 号 機		21P08-0020～	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検 査 基 準 値	
油 圧 装 置	☆ 油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	25.0±1	
		弁シリンダー油圧	MPa	－	
		攪拌モータ油圧	MPa	8.0±1	
		ブーム油圧	MPa	27.5±1	
		ACCガス封入圧力	MPa	－	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
車 体 ・ 安 全 装 置	☆ 旋回ベアリング 取付ボルトの締付	外輪取付けボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8	
		内輪取付ボルトの 締め付けトルク	N・m	325.6±9.8	
		旋回ボルトの交換基準	年	特記 4)	
	☆ 旋 回 作 動 速 度	旋 回 速 度	sec	85±10	
		(旋回作動角度)	(度)	(360・全旋回)	
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(2160 +0 -50)	
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(シャシで異なる)	
		(作動油温度)	(°C)	(50±10)	
	☆ シリンダー 自然伸縮量	各垂直シリンダー	mm	0.5 以下	
		(測 定 時 間)	(min)	(10)	
		(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No.2]	
特 記 事 項	1)ポンプ 圧力の測定は特殊治具を必要とし危険が伴うのでベ-レ-タに異常の有無を確認し異常が無ければ省略する。 2)可変式油圧ポンプ の場合は斜板を最大に切り換えた状態とする。 3)シリンダ 耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。 4)締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベ-アリング 輪(外輪 又は 内輪)のボ-ルト全数交換。				

☆印：新車基準値を表す(参考値)

項 目	測 定 方 法	計 測 姿 勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		

項 目	測 定 方 法	計 測 姿 勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
		

項 目	測 定 方 法	計 測 姿 勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、 ブームをまっすぐに伸ばした 状態で保持する。各ブームシ リンダにダイヤルゲージを取り 付け、10分間の自然降下量 を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみ とし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定 対象のアウトリガの真上に置 く。アウトリガにダイヤルゲ ージを取り付け、10分間の自 然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢

項 目	測 定 方 法	計 測 姿 勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、 各ブームシリンダの全ストロ ークの作動時間をストップウ オッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)